

# 一步会だより 第20号

テーマ: 設立 20 年を迎えた  
一步会の活動と今後



昭和CGに咲きみだれる花たち

四国通路の環境と文化を守り、世界遺産へ!

**NPO法人 徳島共生塾一步会**

事務局担当 (米川) 〒779-1121 阿南市那賀川町黒地 158 番地 4

080-6397-6888 Tel/Fax 0884-42-1371

E-mail: yonekawa-hirosi-anan@tune.ocn.ne.jp ホームページ: <http://www.toku-ippokai.org/>

2018年06月発行

写真で綴る一步会&ユースのこの1年間の活動(1)



(1) 9月美波町海岸～薬王寺遍路の旅 (2) 10月緑化推進絵画コンクールの予備審査



(3) 留学生達との1～5番遍路ウォーキング (4) 1月一步会&ユースの新年会



(5) 1月21日緑化推進絵画展の表彰式 (6) 3月4日大日寺～井戸寺へウォーキング

## 目 次

- 写真で綴る一步会&ユースのこの1年間の活動(1)(表紙裏)・・・・・・・・・・ 2
- 目 次・・ 3
- 巻頭言：一步会だより(第20号)の発行にあたって・・・・・・・・・・理事長 谷口 右也・・・・ 4

### テーマ 設立20周年を迎えた一步会の活動と今後

#### 【特別寄稿】

- 遍路の歴史を語る真念庵を護る・・・・・・・・・・・・・・・・山下 正樹・・・・ 5
- 一步会の今後の活動に期待・・・・・・・・・・・・・・・・佐野 喜計・・・・ 7

#### 【一般寄稿】

- 新しいエネルギーの話し・・・・・・・・・・・・・・・・大垣 光治・・・・ 9
- 一步会は環境活動の原点・・・・・・・・・・・・・・・・瀬尾 規子・・・・ 11
- 一步会活動の関わり・・・・・・・・・・・・・・・・松岡 弘記・・・・ 12
- 平成の終わりと地域づくり・・・・・・・・・・・・・・・・原 仁志・・・・ 13
- 遍路愛の話をしよう・・・・・・・・・・・・・・・・多田 雄二・・・・ 14
- 元 板東俘虜収容所長「松江 豊寿」・・・・・・・・・・・・・・・・山室 昭次・・・・ 16
- 「徳島共生塾一步会」とは?・・・・・・・・・・・・・・・・川井 ふみ子・・・・ 17
- 一步会だより・・・・・・・・・・・・・・・・多田 昭恵・・・・ 18
- 障害を持つ人たちとの遍路ウォーキング・・・・・・・・富田 欽二・・・・ 19
- 皆さん人生賛歌など歌いましょう・・・・・・・・計盛 幸雄・・・・ 21
- 私も行ってみた足摺岬と金剛福寺・・・・・・・・富田 欽二・・・・ 22
- 一步会の活動と今後 ~ 「ホームページ」について・・・・内田 武男・・・・ 23

#### 【活動報告等】

- 公園監視事業・・・・・・・・・・・・・・・・山田 達男・・・・ 25
- 海岸生物調査・・・・・・・・・・・・・・・・山田 達男・・・・ 30
- 中浜万次郎の出生地・・・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・・ 33
- 遍路文化と般若心経・・・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・・ 34
- 一步会ユースの林さんが投稿・・・・・・・・・・・・・・・・林 大輔・・・・ 35
- 一步会ユースの組織内容・・・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・・ 36
- 編集を終えて・・・・・・・・・・・・・・・・富田 欽二・・・・ 36
- 海外留学生たちとの1~5番遍路体験・・・・・・・・事務局・・・・ 37
- 写真で綴る一步会&ユースのこの一年間の活動(2)(裏表紙)・・・・・・・・・・ 38

## 一步会だより（第20号）の発行に当たって

特定非営利活動法人 徳島共生塾一步会 理事長 谷口右也

昨年の平成29年5月から、前・新開理事長から、その職を引き継がさせていただいている谷口です。

会員各位や関係者の皆様には、日頃のご支援に対し、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、世界に目を転じれば、中東情勢の不安定化や米朝首脳会談、アメリカ・ファーストに象徴される保護主義の台頭、さらには不気味な中ロの動きなど、「この先、世界はどうなるのだろう？」と、片田舎に住みながらも、かなり心配な日々であります。

一方、国内では、日本大学アメリカンフットボール部のニュースが紙面を賑わせましたが、国会は8億円の値引きに揺れ、その裏で、忘れ去られたかのような日本の借金1,000兆円（ちなみに、1時間毎にその利息は、22億円ずつ増加しているとか？）。

そんなときに、新聞で見つけた「高松市丸亀町商店街」の再開発事業。

かつて活況を呈した商店街ですが、バブルによる地価の高騰により、人も衣食機能も郊外に散ってしまったそうです。

そこで、町の再生を目指すのですが、「商業地に人が張り付いたのではなく、人が暮らしているところに商業が自然発生的に集積したのが商店街」と考え、再生プランをあくまで自分たちで練り、そのコンセプトは「自分たちがハッピーな老後を暮らすためには、この街をどうすればいいのか。」という視点。

まさに当事者としての目線、自分たち自身の問題として捉え、そして成功しつつあるとのこと。

規模の大小はあれ、私たち一步会も、「自分たちの地域の環境を、住民・企業・行政と一緒に汗を流して、どう解決していくか。」というのが大テーマです。

「昭和町のポケットパーク」に始まり、県下の数カ所に、山のようになった「遍路道沿いのゴミのクリーンアップ大作戦」、そして今は、「四国遍路の世界遺産化」の一翼を担っています。

当然、私たち一步会だけで、地域の全ての課題を解決できるわけではありませんが、行政だけに課題を投げつけても何の解決にもつながりません。

私たち一步会は、自分たちが住みよい地域をつくるために、出来ることを一步一步、日頃のネットワークを活用して、一緒に汗を流して進んでいきましょう。



## 遍路歴史を語る真念庵(高知県土佐清水市)を語る

公認先達 山下 正樹 (奈良市)

私達お遍路さんにとって、聖地と云える真念庵(しんねんあん)がある。真念庵は四国遍路で最も距離が長い三七番札所・岩本寺から三八番札所・金剛福寺に至る遍路道約81キロのほぼ中間点にあり、四万十川を渡り、伊豆田岬を越えた三原村との分岐点付近の遍路道である。高知県土佐清水市下ノ加江市野瀬村にある江戸時代から続く【四国遍路の父】ゆかりの真念庵、現在、お遍路さんは、年間15万人、うち歩き遍路さんは5千人と云われているが、遍路道沿いにあるこの「遍路の父」と言われた真念ゆかりの真念庵を参拝する人は「年間500人しかいない」と納経所の方は、淋しそうに話してくれた。

公認先達・歩き遍路の会は、毎年、歩き遍路の時、「遍路の父」と言われた真念ゆかりの真念庵への参拝と周辺遍路道の整備作業を行い、真念の遺徳を守るお手伝いをしている。

弘法大師を祭っている約20平方メートルのお堂は、代々、地区の住民が管理し、約30年前に補修したが老朽化が進み、今年1月の地区総会で改築実行委を組織した。同規模での建て替えには500万円が必要というが、地区世帯数は26件しかいない。実行委員長は「年金生活者も多く、住民だけでは資金調達は難しい」と寄付を募ることにした。

真念庵は、戦後昭和30年頃までは宿泊の施設もあり、実際に遍路宿泊や休息の施設として利用されたが、その後無住になり日常的に管理ができないため、普段は施錠され、道内は公開されていない。建物の補修管理は地元市野瀬の集落26戸がお世話している。

### 皆さん、真念庵改築のご支援をお願いします！

こうした取り組みは広く全国のお遍路関係者が応援することに意味があります。

真念庵所蔵資料は、遍路の信仰と文化を物語る民俗資料であり、真念庵はいわば、遍路文化に関する生きた民俗資料を所蔵するタイムカプセルであるとも言える。真念庵は近世の庶民信仰と遍路文化を伝える多くの資料を所蔵しているが、現状は堂舎の老朽化が著しく無住のため資料の盗難や散逸の恐れもある。これらの貴重な庶民信仰に関する資料の保存のためにも、老朽化した真念庵の堂舎の早期の修復が必要だ。

真念は江戸時代初期、ガイドブックに当たる「四国遍路道指南(しこっくへんろみちしるべ)」を記すなど、遍路文化を広めた僧の一人、真念庵は真念の名を冠した番外札所の中でも重要な場所である。

従来、僧侶の修業の場であった四国遍路が一般民衆に受け入れられ一大ブームをなしたのは江戸時代中期のことである。このような四国遍路の大衆化の動きの火付け役となったのが「四国遍路の父」とされる真念である。高野聖の真念は、自らも四国遍路を20数回めぐり、巡礼者のために200以上の石の道標を建立している。20基ほどが現存し、その一つが土佐清水市下ノ加江の県道三原分岐に残されている。

真念庵は、大師信仰に熱い地域の人々の協力を得て建立された。これはここから足摺岬の38番金剛福寺を打ち戻し、三原、長谷を経て39番延光寺に巡礼する遍路の往復の便宜のためであった。

真念は元禄五年(1692)に四国遍路の途上でこの世を去ったが、以来、真念の名を冠した真念庵は近世からいたる多くの遍路に利用され、遍路文化の形成に重要な役割を果たした。

真念の功績として最も重要なのが四国遍路の便宜のために巡礼のガイドブックともいえる『四国遍路道指南』を貞亨(1678)に出版したことである。『四国遍路道指南』は四国遍路を目指す人々のベストセラーとなり、同書を手にした多くの人が四国遍路に旅立ったのである。また、遍路が休息や宿泊するための庵を建立しており(大師堂真念庵が土佐清水市下ノ加江市野瀬地区に残されている)、同書には、真念庵について「市野瀬村さかうちよりはまでは八里、この村に真念庵という大師堂遍路に宿かず、是よりあしずりへ七里」(『四国遍路道指南』講談社学術文庫六六頁)とその存在が記述されている。

真念庵の境内には、元禄五年(1692)銘の真念の供養塔を始め四国八十八か所の石仏などの近世の石造物が多数存在する。また、真念庵では現在も旧八月十四日に市野瀬部落主催で盆棚に供物を供え、無縁仏の位牌を祀り施餓鬼供養が行われている。

真念庵の境内と前後のおよそ2キロメートル遍路道は丁石や遍路墓など、多くの石造物が残り、その景観は近世以来の遍路道の風情を残している。

四国遍路道の正解遺産の登録が大きな目標となる中で、ここ土佐清水市下ノ加江市野瀬の真念庵は四国遍路の歴史を物語るポイントとなる真念ゆかりの遺跡であり、真念庵および所蔵資料の保護は緊急課題です。

**全国の皆さん、真念庵、改築の支援をお願いいたします。**

(土佐清水市、清水市文化財審議会報告書より)

四国八十八ヶ所霊場会 公認先達 山下 正樹 090-5648-1989

[Henro88@ken.ne.jp](mailto:Henro88@ken.ne.jp) 〒639-1056 奈良県大和郡山市泉原町74-5



## 今後の一步会活動にも期待

四国霊場会公認先達 佐野 喜計

徳島共生塾一步が設立されて20周年をお迎えになるとのこと、長きにわたって地域社会に大きく貢献された事に先ず感謝と敬意を表します。

思えば、私と一步会とのつながりが出来てもう4～5年になるでしょうか、外国人留学生さん達を案内して1番札所、霊山寺から5番札所地蔵寺まで歩き遍路をしたのがご縁となりました。以後、お遍路関連の催しが開かれるたびに、微力ながらお手伝いをさせて戴いております。

現在、一步会の四国遍路の関係する活動といたしましては

①外国人留学生、または一般成人を対象とした歩き遍路体験

②歯の辻等の遍路道の清掃。

などが上げられます。

①の歩き遍路体験につきましては、その幅を広げ社会的弱者である障がい者を対象とした歩き遍路が今年から追加されました。2月4日にはあいにくの天候にもかかわらず、1～5番を実際に完歩していますが出来る事なら、五番札所から先の巡拝も継続し、阿波一国を回れたらと夢を膨らませています。

②につきましては17番から18番に至る地蔵越えに続く、あずり越えの整備も一時は構想にありました。昨年は道しるべを着けて、お遍路さんの便宜を図っておりますが、まだまだ十分とは言えません。いずれ折を見て、草刈り、枝払い等の作業も実施し、あまり、お遍路さんが通らない道ではありますが、私たちの手で、何とか安全な遍路道に出来たらと考えています。

さて、四国遍路の世界遺産登録を悲願として各団体が一致して強力に推し進めているのは周知のことです。四国遍路とは八十八のお寺は勿論、そこを歩くお遍路さんと遍路道だけではありません。四国遍路を語るうえで欠かせないのが、『お接待』と云う数百年も地域住民に支えられ伝承してきた文化の存在があります。一步会も一番札所、霊山寺境内にある紀州接待所の施設をお借りし、参拝者に対してお接待を実施しました。今後とも徳島経済同友会や徳島ユネスコ協会と緊密に連絡を取り合いながら、可能な範囲で継続していく事を希望しています。

私が主に活動している歩き遍路体験も既に十数回に及んだでしょうか、県内の主な札所はほぼ巡拝した事になります。参加者の希望やアドバイスを念頭にまた、新しいコースへのチャレンジもいいのではないかと考えております。

また『歩き遍路体験』の実際は『遍路道ウォーキング』と捉えている参加者が多いのでは

ないでしょうか、一応、本堂と大師堂では般若心経を一巻づつ唱えるという略式で済ませているのが現状です。先達の立場から申し上げますと、本来の巡拝の作法通り、開経偈から始まり回向文まで、総て動行出来たらさらに、良いのではと愚考するものであります。これは時間にしますと2～3分長くなるだけの話なので、実際に可能だと考えます。いろいろ思うことはありますが、一步会様の今後の活動には、出来る限りの協力をさせて戴く所存でありますので会員の皆さん方には、何卒、よろしくお願い申し上げます。



①一昨年12月外国人留学生達と



②霊山寺境内で読経風景



③外国留学生に菅笠の指導



④5番地藏寺で本日最後の納経



⑤1昨年9月恩山寺、立江寺へ新開さん挨拶



⑥原さんも参加していた。

## 新しいエネルギーの話し

大垣 光治

私は美馬市穴吹町にすんでいます。



家の近くには高越山があり、清流穴吹川が吉野川に流れ込んでいます。穴吹川では、シラサギが仲良く楽しそうに水遊びをしています。

<http://photozou.jp/photo/show/638553/59744327>

ときどき、「エコみらいとくしま」のスタッフの方と一緒に、小学校へ地球温暖化についての話しをしに出かけます。きょうはそのうちの一部をチラッとだけですが紹介します。

<http://illustrain.com/?p=30225>

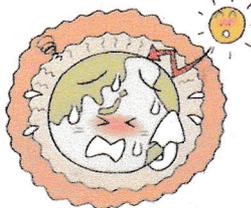


とくしま動物園へ行ったことはありますか。

とくしま動物園には5歳のメスのシロクマがいます。シロクマは氷が大好きです。氷の上で遊んだり、海の中にいるアザラシや魚を食べたりしています。

地球が暖かくなっています。地球温暖化です。

そのため、シロクマが住んでいる北極の氷が少しずつ溶けています。シロクマはたいへん困っています。



地球が健康を取り戻すにはどうしたらいいでしょうか。

LEDの明かり、太陽光や風力発電、電気自動車や燃料電池自動車など、次々と新しい技術が開発されています。

[http://mitakanokyon.at.webry.info/201008/article\\_6.html](http://mitakanokyon.at.webry.info/201008/article_6.html)

水素エネルギーで動く自動車「燃料電池自動車」って聞いたことがありますか。

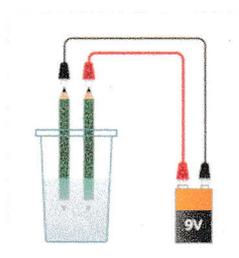


燃料電池自動車には、ガソリントankの代わりに、燃料の水素ガスを蓄えておくボンベがあります。この水素と空気の中に含まれている酸素から電気を作って、自動車を動かしています。

[https://www.irasutoya.com/2016/02/blog-post\\_97.html](https://www.irasutoya.com/2016/02/blog-post_97.html)

燃料電池自動車は、自分で電気を作ってその電気で走る、地球に優しいクルマです。

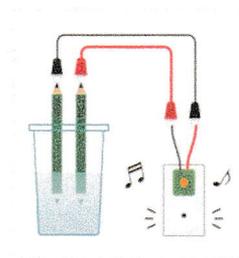
出前授業で小学生が取り組んでいる実験を紹介します。  
水からつくった水素と酸素から電気を作って、オルゴールを鳴らしましょう。



### (1) 水素ガスをつくる実験

ずっと昔、学校で水の電気分解って勉強したのを覚えていますか。その水の電気分解で水素ガスをつくります。水（スポーツドリンク）に両端を削った鉛筆に2～3分電気を流します。やがて、鉛筆の先の周りに、水素ガスと酸素ガスがブクブクと出てきます。

<http://www.kepco.co.jp/sustainability/kankyou/ecolabo/01.html>



### (3) 水素と酸素から電気をつくる

この水素と酸素から電気をつくってオルゴールを鳴らしましょう。

電池の代わりにオルゴールをつなぐときは、ちょっとわくわくドキドキしますが、メロディーが鳴り出すと実験は大成功です。ぜひ挑戦してみてください。

<http://www.kepco.co.jp/sustainability/kankyou/ecolabo/01.html>

一步会が設立されてから20年になるとのこと、おめでとうございます。県庁在職中の2002年から2004年の2年間、ルーマニアのブカレストでルーマニアの環境改善のお手伝いをさせていただきました。



[http://www.officiallyjd.com/archives/453076/20150605\\_murofushikouji\\_26/](http://www.officiallyjd.com/archives/453076/20150605_murofushikouji_26/)

その時に、一步会の活動「クリーン大作戦」を、ルーマニアの小学校や行政で働いている人に紹介してもらいました。楽しい思い出です。

NPO活動がほとんど行われていないルーマニアの人たちには、ボランティアでこれだけたくさんの人が参加して清掃活動をしているといっても、なかなか理解してもらえませんでした。



ルーマニア・ブカレストの小学5年生に、「日本では環境を良くするためにどんなことをしているのか。」話しをしました。

これからも、一步会の皆さんに励ましていただきながら、少しでも多くの方に地球のこと、地球温暖化のことを話し続けたいと思います。

よろしくお願いします。

## 一步会は環境活動の原点

瀬尾規子

共生塾一步会の設立20年おめでとうございます。永年、一步会を牽引してこられた新聞さん始め理事の皆様にご心から敬意を表します。私にとって一步会は環境活動の原点です。一步会との出会いを振り返ってみたいと思います。平成8年から始まった徳島自然共生塾は、自然共生に関する活動を地域で行うボランティアリーダーの育成を目指す徳島県主催の講座でした。私は平成11年に受講しました。講座の案内を見ると、全6回の講座で、1泊2日の県外での研修や、県内のフィールドワークもあり、とても興味がそそられました。毎年、徳島県全域から約50人の受講者がある人気の講座でした。行政の人も参加していました。第一回目は、グラウンドワーク三島の渡辺豊博さんの講座でした。三島のジャンボさんと呼ばれ、「片手にスコップ、片手に缶ビール」という合言葉で、ゴミで汚れていた源兵衛川を清流に蘇らせた話は、とてもインパクトがありました。イギリスで始まったグラウンドワークという市民・行政・企業のパートナーシップによって、地域が再生していく事例はとても魅力的でした。滋賀県甲良町の視察研修も学ぶことがたくさんありました。せせらぎの小径など、水を活か



川の環境活動で中村さんと一緒に



した住民によるまちづくりを視察し、夜は琵琶湖名物の鮎ずしを食べながら、地元の人たちと楽しく交流しました。講座修了後に一步会の三田会長から一步会の活動紹介があり入会しました。平成12年にはグラウンドワーク・トラスト構築事業の講座も受講し、静岡県三島を視察しました。源兵衛川は富士山の湧水が流れ、見事に美しい水環境が再生されていました。グラウンドワークによる花壇づくりや小学校のピオトープの見学もしました。多額のお金をかけなくても、官民協働で環境を変えていくことができること身を持って体験しました。自然共生塾での学びは、私を劇的に変えました。受講後、ひとりからでもゴミ拾いをして町

をきれいにしたいと思っていたところ、グッドタイミングで仲間から声をかけられ、平成12年8月に名水百選の江川の水源を守り、昔の清流を取り戻すために様々な環境保全活動を行う、江川エコフレンドをスタートさせました。市民・行政・企業のパートナーシップによるグラウンドワークを取り入れ、毎月1回清掃するだけで、雑草や竹で荒れていた川がみるみるきれいになっていきました。設立後5年間会長を務め、昨年9月から再びNPO法人江川エコフレンドの理事長を務めています。

一步会が遍路道の清掃活動から四国遍路を世界遺産にする活動に発展させ、それを定款に加えたことは、先見の明があったと思います。私も、空海に思いを馳せながら巡礼しているところです。さらに、一步会ユースを作り、次世代に活動を繋げたことは大きな功績です。若者の活躍を大いに期待しています。これからも、できることを無理なく楽しく、一步一步、地道に活動していきたいと思います。一步会の今後益々の発展と会員皆様のご健勝を心よりお祈り致します。



江川エコフレンド 吉野川アドプト

# 一步会活動への関わり

会員 松岡 弘記

初めて原稿を執筆させていただきます。これにあたり、私のことをよく知らない方もいると思いますので、簡単に自己紹介をします。

松岡 弘記 27歳男性

.....一步会参加までも簡単な流れ.....

学生・社会人時代に不登校・ひきこもりを経験



そこから抜け出すため、社会復帰の一環として、  
一步会の昭和町コミュニティガーデンに参加。



そこから一步会のさまざまな活動に参加し、人間関係を  
広げ、社会復帰に自信がつく



理事長の谷口氏より仕事を紹介していただき、現在は  
その職場で働いている。

「設立20周年を迎えた一步会の活動と今後」というテーマとのことですが、  
まずは設立20周年おめでとうございます。

人と接することが苦手な私が、一步会へ持続的に参加できたのも、一步会の方々の温かい人柄であると思っており、とても感謝しています。

さて私が一步会の活動に関わるようになり、約3年が過ぎようとしています。

以前は様々な活動に参加させていただいていましたが、  
ここ半年ほど活動に参加できていません。仕事と活動の  
両立の難しさを実感しています。ですがこういった活動  
に携われることは、大変貴重な時間であるので、これか  
らもうよろしくお願いします。



## 平成の終わりと地域づくり

会員 原 仁志 (佐那河内村)

しばらく前に「ふるさと創生」に始まり「地方創世」で平成時代は暮れていくとの見出しの文章を目にしました。当時の竹下登総理大臣が提唱したもので、全国3000余の自治体に1億円ずつを交付し、それぞれ自治体の活性化を喚起したのです。交付金を契機として、全国で故郷と創生事業がブームとなりました。ふるさと創生事業とは「自ら考え自ら実践する地域づくりの事業」と云われていました。その頃、「地域づくりは花盛り」とか、「地域活性化の大輪は辺境に咲く」などとも云われ、全国各地で競うように地域づくりの団体の活動が伝わったものでした。徳島県にあってはその頃、新徳島県民運動やチャレンジ徳島と名付けられた住民活動を展開する運動も盛んで、現在の地域づくり団体につながる人材の養成と地域の活性化には大きな役割を果たしました。

私は、佐那河内村の吏員として平成3年4月に企画課に配置替えとなり、地域づくりに携わるようになりました。少し遅れて地域づくりに係る様になったのですが、徳島県内外の色々な活動や取り組みに触れるようになりました。

平成7年夏には新潟県安塚町(現在の上越市)で開催された、全国地域づくり団体協議会の研修会に参加する機会にも恵まれ、当時の三好郡井川町の中瀧清文町長さん、海部郡由岐町の兵庫賢敏(後の町長)さんとの出会いも私にとって大きな刺激となりました。又、あの時の明星大学不動産学部の森巖先生の基調講演やその時の出会いが私の公務員人生を方向付けることとなったのです。

その後、平成9年度に谷口右也理事長さんが担当係長として開催されて2年目の地球の修理屋さん、「環境ボランティア・リーダー養成塾」に塾生として、1年間お世話になりました。私達の徳島共生塾一步会も環境ボランティア・リーダー塾の修了生が中心となり設立され、徳島県内ではボランティア団体としては揺るぎない地位が今日あり、徳島共生塾一步会の皆さんの精神の賜と敬意の念を抱いております。

私は地域づくりの雑誌「かがり火」を購読していますが、最新号の送付文書には、非常に興味深い事柄が書かれていました。その一部を紹介しますと、

・・・「高齢化」と「後継者不足」は我が国が直面している大問題ですが、いよいよ地域づくりの最前線まで押し寄せてきました。本誌が参加しているいくつかの地域づくり団体でも高齢化が進み、集まるたびに「老人会のようなになったね」と云うボヤキが聞かれるようになりました。・・・

「ふるさと創生」で始まった平成の時代ですが、ここ30年間、全国で取り組まれてきた、地域作りの活動も高齢化の悩みを持つ団体も多いようです。平成も残すところ後1年足らず、平成の終焉と同じく、地域づくりの活動が・・・「地方創世」で幕を閉じることなく、更なる発展のための行動が求められていると感じる昨今です。

## 「遍路愛の話をしよう」

会員 多田 雄二 (徳島市)

遍路さんに出会ったら気軽に声をかけるがよろしかろう。さほど難しいことではない。

『遍路愛』という3文字言葉を最近知った。しかし詳しい説明を聴いてはいない。何となく分かるような気がして、勝手に解釈してみた。一番目は 深い大師信仰から生まれた四国遍路に深い大師信仰から生まれた、注ぐ愛二番目は 遍路という有難い精神文化を継承している人々や地域への敬愛、三番目は、ちょっと考えて・ お遍路さんに何かしてあげて気持ちが嬉しくなる。(善行を施したという小さな自己満足かも知れないが)自分への愛、これで結構いいところに行っていると思っていたが、後で私の素人解釈が的外れだったと分かった。

実をいうと徳島市の図書館に興味深い資料がある。伝統的遍路資料を志向する遍路同好会(昭和42年発足)という東京の大師講(信者会)が、昭和6年から14年までの9年間に発行した月間の会報、その縮刷版だ。昭和6年1月創刊号の巻頭言が「遍路愛」である。

昭和6年という年は日本現代史の中で特筆されていい。世界恐慌から脱出できず経済的困難の中、前年11月、立憲民政党の浜口雄幸首相が東京駅で右翼青年に襲撃され政治生命を絶たれた。国際的孤立の内に政治的には軍部の力が急速に増大し戦時体制が強められ、中国への直接侵略が始まった年だからだ。

こうした息苦しい時代背景がありながらも、明治の廃仏毀釈で痛手を受け逼塞していた霊場巡拝がムーブメントとして、復活の兆しを見せていた。四国遍路の人気は大衆化し遍路同好会もまた時流に乗って誕生したように思われる。

会則には事務所東京府下の中野・宝仙寺とある。戦前の地名なのでよくわからないから、当てずっぽうに宝仙寺へ電話して尋ねた。いま東京都中野区中央言宗宝山派の古希、都内屈指の大寺院江戸府内八ヶ所の12番霊場、千年の歴史があるという。若い職員の電話対応だったので詳しいことを聴けずに終わったが、同好会発足時の初代会長は先代住職の富田和尚だとわかった。

さて、『遍路愛』だが創刊号の表題を見てみよう。人生是遍路、世界即遍路、同行二人慈、萬象帰一樂。正しい解釈は知らない。字づらからなんとなく大意は感じとれる。馬場さんと云う編集者のコラムがまたすごい。『遍路愛！現下の世相に処し、人生に光明を与ふるもの唯だ是のみ、我らは高く遍路愛を叫ばん』相寄り相扶け、疲れたるを推し、病みたるを挽きて進む、斯く人生の旅、始めて易きを得ん。

そうか、遍路愛は人生相、人道愛。つまり人生を豊かにする実践の提唱と受け取れる。

富田和尚は3月号で次のように記している。「遍路愛はまさに新名詞である。併し乍ら遍路愛そのものは四国遍路始まって以来、厳然として存在する事実である。吾々は唯、事実そのものに遍路愛という名をつけたまでである。」「私の見る所では、少なくとも処々に見る事の出来ぬ事実が3つあると思う1、曰く相互愛、2、曰く平等愛、3、曰く犠牲愛である。」

和尚は四国をよく見てごらんささいと仰せだし、四国に根付いた遍路の形を肌で感得することを熱心に勤める。平等愛の具現化の一例に、遍路同士が出会った時の半合掌の挨拶を上げる。「必ず手を挙げ頭を少し垂れて敬礼することになっている。一人でもこの作法に背くものはない。これは専門語で言えば半合掌である。遍路は片手に錫杖か大師分身である杖を持っているので両手は使えない。半合掌は合掌の代りなのである。「乞食同様(原文

のまま)でも出家でもお嬢様でも同じ」であって、なんの隔てなく貧富出自に関係なく、半合掌で出会い、そして別れてゆく。「遍路は我らの精神を清浄無垢に返らせる。心身の病を治すには四国遍路が一番」等熱烈だ。寄稿者の四国への慈しみが伝わってきて、鈍感な男が感激ひとしおである。

これも遍路愛の実践なのだろうか・東京の多くのお寺から四国の札所へ恒例の接待袋を送る記事が3月号に載っている。会員が持ち寄った金品を土佐24番最御崎寺へ発送した。袋の中身は書かれていないからわからないが、その袋の量が半端ではない。千葉正王寺3000袋、石神井長命寺2000袋、長野宝仙寺1000袋、西新井総持寺500袋など9寺の合計8000袋。

現今の接待は、一般的には四国遍路の道中に受ける施しを指していると認識していた。然し、月間「遍路愛」の記事のように、お寺が中心になって、遍路に出てゆく都市部の信者側から四国の札所へ多量の接待袋を送る習慣が昭和初期にあったとは、私には発見だった。

富田和尚はまた四国遍路の体験談も書いている(昭和6年3月号)。8番札所熊谷寺では年増の宿引きに「お泊りになりませんか」と引き込まれ、その遍路宿に杖を預けた。

時刻が速かったので客は一人もいなかった。表2階の8畳間に案内された。2階には空き部屋がまだ5室あった。それでも客全員が同室相同宿だった。夜食は大根干し煮付けと沢庵2切れのみ、勿論15人同食、和尚は遍路から勧められた時には断ってはならぬと教えを受けていた。だからこの宿にいる。そこで考えさせられた。「客引きする位なら少しは商売根性を出しても良いではないか。一寸だけ値段を足して油揚げの1枚でも出せば客は増えるだろうに」これは部屋の問題でも食事の問題でもなく、遍路の本義にかかわる問題だと和尚は見立てる。

全国数多くの宿屋が客の財布を狙っている中で四国の遍路宿では「如何にせば遍路に金を使わずに泊まらせ得るや心掛けている」四国ならではの遍路愛の型だというのが和尚の見解だ。

接待についても、よそに類例無き施しが四国では盛んに行われていると記す。米、銭、紙、手拭い等又は牡丹餅、五目鮓、甘酒、漬物等或いは荷物を背負う労力奉仕や無料で泊める善根宿も、遍路が接待を受ける時には、接待者の現当二世の安楽を心から祈るべしと。

お接待は弘法大師への報謝であり、自身の身代わりとなって巡拝している人への労りと現在も考察されているが、お接待をする方もされる意識も型も振る舞いも変わっていくのは仕方ないことだ。望ましい変わりようって、あるものなのか。

江戸時代のお接待については愛媛県の「データベース愛媛の記録」を引用させてもらうと、接待品は米、麦、大豆、唐黍、餅、野菜類、食料品のない貧しい村では布切れ、チリ紙なども記録にある。土佐馬路村のある集落では一年一軒あたり穀類平均1.5~2合の接待品となり、中には一升と云う家もあった。天保四年~七年(1833~36)の大飢饉に遭いつつ四国遍路に出かけた武州中奈良村(今の熊谷氏)の庄屋野中彦兵衛が残した万覚書によると、彦兵衛さんは天保七年(1836)讃岐宇多の78番郷照寺から打ち始め二か月かけて巡拝を終えた。道中、接待を受けること50回、うち草履5回、銭4回、飯36回、大飢饉のさ中どこの村も苦しかろうに、このもてなし振りだ。

今と比べてどう考えるべきなのか、と言っても接待の品数や回数のことではない。四国に住む自分にとってお遍路は何なのか、と言う事である。



「 徳島共生塾一步会 」とは？ 会員 川井 ふみ子 鳴門市

「一步会」に入会する前は、「男女共同参画」について学んでいた。「男は仕事女は家庭」と云う固定観念はここ20年でやっと崩すことが出来た。只、女性側の社会進出は進んできたが、賃金の男女格差は未だ解消されていない。環境問題にしても、ごみが減るどころか増え続けている。何事も「元を正す」しかないが、大量生産が終わらない限り包装材がごみとして出る事は防ぎようがないのだ。しかし、環境を良くしようと「一步会」で男女共に協力し合い、先ず、遍路道の清掃を始めた先駆者である。四国八十八ヶ所をめぐる人たちにとって遍路道にはごみや違法に捨てられている物を見ていて、本当に不快な思いをされた事だろう。その近辺の人達にとっても、良い事ではなかつただろう。世界遺産を目指す道のりは厳しくても、希望は捨てずに、これからも遍路道の清掃を住民たちと続けて行くことが最善の策であり、同時に次世代の人たちに伝えていくことも加えなくてはならない、現在、清掃や遍路道の紹介が主な事だが、四国八十八ヶ所ゆかりの寺で「短歌」を詠んでいる人がいたことを知った。

「 限りあればこそ詠う 」(本の題名)

水野けんいちさん 霊山寺にて (8句 づつのうち)

① たしかなる決意はあらず迷いきて 一番札所の山門に立つ。

② 捨てられて捨てる意志持ち歩き出す、遍路の道は、春に霞みあり。

各寺で8句づつ詠んでいる中の2句ですが、心の内をよく読んでいる名句なので紹介しました。



① 1番霊山寺入口に池があり鯉が見事



② 12月海外留学生達之多宝塔前で。

## 一步会だより

会員 多田 昭恵 小松島市

### 団体活動

私は地域の防犯協会員になり10円目を迎えます。独居老人を見守ったり、小学生や幼児の交通安全の指導等しております。地区防災活動においても、徳島大学の教授や諸先生方、地域の皆さんと訓練をしたり、「自分の身は自分で(自助・共助・公助)で」と話し合い、「災害は住民の地域づくりが出来てこそですよ」と伝え、地区防災会を立ち上げました。また、先日は、山田さんや計盛さんの進めているEM菌環境浄化のイベントに参加させてもらい、皆さんが力を合わせている様子が分かり、勉強することができたことで、大変良かったと思います。

### 遍路

「歩き遍路をしてみませんか」と声をかけて頂きましたが、ちょうど狭窄症を発症して歩くことができず諦めました。兄妹、友人と車でお遍路をしましたが、それでも歩く所が多く大変でした。また、全国のお寺参りにも行き、たくさん納経もしてきました。

行く先々で「道しるべ」を立ててくれていた鳥取県の方が不慮の事故で亡くなり、次に広島県の宮崎さんが「自分も困った経験があるから」と引き続きたててくれて、歩き遍路さんに喜ばれていますね。地元の人でもなかなかできないことでしょうし、有り難いことだと思います。感心させられました。

### ゴミ

地域で、ゴミや草抜きを手の届く範囲でしています。ペットボトルや空き缶、弁当箱やタバコ等ポイッと捨てていきますし、私達の目の前でも平気で、車の窓を開けて投げたりもします。どのような躰を受けたのでしょうかね。困ったものです。毎回繰り返しです。

### 趣味

今年は6月にアジア初演第九100周年です。友人と一緒に第九の練習をして、アステイとくしまで2月に3000人とともに歌うことができ、よき思い出になりました。

また、県主催の21世紀館において、声楽家の指導のもとクライン合唱団に参加して、1年間の練習で10曲を日本譜とドイツ譜で歌うことができました。

地域においても、合唱団に入って10年がたとうとしております。舞台上で歌う楽しさや喜びを感じております。慰問活動や一緒に歌って皆さんに楽しんでもらっています。ご年配の方から、「また歌いに来てくださいね」と声がかかります。小さな団体ですが、いつも明るく楽しくどこかで歌っています。

## 障害をもつ人たちとの遍路ウォーキング 会員 富田 欽二 (小松島市)

今年の2月4日、冬の寒い季節風が吹き荒れる季節だが、四国八十八ヶ所遍路巡行の1～5番、自閉症協会、の皆さんと一緒に計18名で遍路ウォーキングをすることになりました。先ず、徳島駅にて参加者がバスに乗車、続いて阿波風月庵を經由して、予定者の乗車を完了して、一番札所、霊山寺に09:17分到着。そこで、先ず駐車場にて参加者にお遍路さんへの心のリフレッシュを味わって戴く為に菅笠、輪袈裟、白衣、それに、金剛杖を参加者に着用、携帯して戴き、霊山寺山門で、皆さんへ心を込めたお礼をして入場する様お願いしました。

札所でのお参りの順序は1、山門（まず最初に此处で本堂に向かって一礼する）、2、水屋（口をすすぎ、手を洗って清める。又、輪袈裟を掛けたり、授受の準備をする）3、鐘楼をつく（今回は省略）4、本堂納札箱に納札や写経を収める。灯明、線香をあげ、お賽銭を収めたら合掌の後、読経する。5、大師堂（本堂と同様に参拝、読経する、弘法大師を祀っている）6、納経所（納経帳に朱印をもらう。有料、今回は省略）7、山門（山門を出るときに振り返り一礼する）池の鯉を見て、前任者の順序に従って納経など、新鮮な行事を味わっていました。次に、

**極楽寺と金泉寺へ** 最初の遍路ウォーキングは2番極楽寺までの1.4Km徒歩20分、そこで、舗装道路だが、橋があり通過する前に佐野さんより橋の上では金剛杖をつかないようお願いがありました。これは大師がその昔、あちらこちらで宿を断られ、橋の下で過ごしたことに由来している。橋の下には大師が休んでいる可能性があり、その眠りを妨げない様、橋の上では杖をつかないのが決まりになっている。とのこと。

橋を渡り平坦な道を通り、10:30分極楽寺に到着、影になる寺の庭には雪が積もり神秘的でした。本堂と太子堂へは階段が50段ほどあり大変だが、経験です。ここでも納経を皆さんが終了。下の薬師堂前には長命杉があり、これは弘法大使のお手植えと云われる樹齢1100年以上の巨木、幹の周りは6～7m高さ30m程もあり、靈気に当たると長寿を授かると言われている。凄い巨木です。此处より金泉寺へ2.6Km徒歩40分、その道すがら参加している愛育会の中年の人と、一步会の米川さんが若い時に職場が同じだったという偶然の出会いから、話が弾みました。その人は、現在は、一人暮らしで独身、



(1) 霊山寺山門前での佐野さんの挨拶、奥に雪あり。(2) 水屋で口や手を清めている。

だったという偶然の出会いから、話が弾みました。その人は現在一人暮らしで独身、明るく元気に遍路ウォーキングに元気に活動してくれていた。

そして、金泉寺へ2.6 Km徒歩40分、門前への道は少し入り込んだ所もあるが昔の佇まいが残る静かな町並み、前の端から見る境内には、すぐ右側に大師堂、奥正面に本堂、左側に鐘楼、そして八角形の観音堂が境内中央の広場を中心に各伽藍が丸く収まっており、拝観しやすい配置になっている。後の話だが、この広場を利用して今年の4月4日、株式会社、一步一步堂が「歩き遍路研修」を今年の新入生向けに行った際、一步会二人がこの広場を利用して、お接待をした不思議な経験です。この金泉寺も11時00分納経を皆さんスムーズに終わり、

次はお食事、原さんが知っていると言う、きんせん手打ちうどん店、国道に近くお客さんも多く皆さん其々のメニューで食事を楽しみ次の大日寺へ、そこで、遍路用語集の一つ、**同行二人** 遍路にはたくさんの困難が付きまとうが、何時も弘法大師が見守ってくれているという意味、大師と自分の二人連れなのだから、安心してお参りに専念せう意味でもある。巡礼中に持ち歩く金剛杖が大師の化身とされているので、休憩を取る際も、杖より先に自分を休ませないなど、取り扱いに注意を払う様にしたい。

**大日寺から打留め地蔵寺** 金泉寺、そしてうどん店より国道に向かい、高い丘を越え農家の前を通れば大日寺へ5 Km、徒歩で1時間20分。寺は朱塗りの趣向を凝らし、鐘楼門を通過して、正門奥の石段上には本堂があり、この日は雪があったのでうっすらと雪を覆っていた。この寺では納経も終わりごろ、二人の参加者の少年が体調を崩し、ついて来ていたバスに乗り休憩、我々は地蔵寺へ向かった。

地蔵寺へは南へ2 Km緩やかな下り坂、その少し手前に羅漢さんで有名な羅漢堂があった。ここは地蔵院の奥ノ院(羅漢さんとは御釈迦さんの弟子で、仏教の修業を積み、最高の位を得た人)。羅漢堂から石段を下り梅林を通ると地蔵寺でした。そこで全員が揃い、佐野先達の誘導で、山門、本堂、そして、大師堂等の本日の納経が終わりました。最後に皆さんへのお接待なども学んで頂きました。そして、この日は皆さん地蔵寺を最後に、思い出を持って、バスにて徳島へ向かった。これも、現代の遍路文化であってほしい。 以上



(3) 小高い山を越えて大日寺へ



(4) 大日寺より南の地蔵寺へ親子で

皆さん人生賛歌など歌いましょう 会員 計盛 幸雄 阿南市

一歩会で「歩き遍路」参加者の皆さんとの出会いは、楽しみ一つです。  
また、下記の歌に出会えたことにも、幸せを感じています。  
一歩会のテーマ曲の一つとして歌って頂きたいです。

各お寺は、「ご詠歌」が掲げられています、地域のご詠歌の会に入会し  
ご詠歌も楽しんでいます。

(☆「靴が鳴る」は一歩会団結の歌として準備体操時に・・・)

☆「歩いて行こう」人生賛歌 きくよしひろ 作詞

1. 歩いて行こう どこまでも  
苦しくても かなしくても  
春が来れば 花も咲く  
小鳥もさえずる 大地じゃないか  
サア- 歩いて行こう 歩いて行こう



☆「歩き遍路のテーマ」 月岡裕紀子 作詞作曲

1. この道は何の道 どこまでも 遠く  
空へ 空へ続くやら 海へと続くやら  
何かに抱かれて どこまでも歩こう  
はらはら こぼれる涙  
花に一 花になれ  
あーあー 空に抱かれ  
あーあー 海に抱かれ



四国八十八ヶ所霊場 第二十三番 医王山 薬王寺のご詠歌  
「みな人の 病みぬる年の 薬王寺 瑠璃の薬を あたえまします」

## 私も行って見た足摺岬と金剛福寺 会員 富田 欽二(小松島市)

今年の2月19日家族一同(姉、妻、妻の妹)で、最果てだが素晴らしい四国の足摺岬、そして、その麓にある四国八十八番所38番金剛福寺へ行ってきました。高知県窪川町の岩本寺より金剛福寺まで80.7Km 徒歩24時間(要3日)を我々は読売旅行で、これは安い、一人¥11,990円+オプション5,000円一泊2日を利用しました。私は50年ほど前には足摺は汽車とバスで一度行きましたが、交通の便が悪く、足摺岬も観光客など殆どいませんでした。そして金剛福寺でお神籤を買って引いてみますと凶、びっくりして、再び買うとそれも凶、がっかりしていると、側にいた叔母さんが「これでもう1回引いてみなさい」とお金をくださり、有難く、こんどは引くと、吉、運命の吉となり、その後、順調です。そんな思い出もあります。

**高知日曜市と足摺岬へ** 先ず我々は小松島のミリカホールで専用のタクシーが迎えに来て乗車0655分発徳島駅では利用者計42名が乗車し7時30分発吉野川SA0915分通過、そして、高知日曜市は1215分到着30軒ぐらい集まっている広い食堂でカツオなど郷土食をとり鋭気を養い日曜市見学、日曜市はカツオや新鮮な野菜などを販売しているのですが10年前に比べれば出店は2割ほど減り、買い物客が減っていて寂しさがあつた。その後、高知城なども見学して1330分一路、足摺岬へ、今回は高速道路が通っているので有難い。国道56号を走り、2時間後、窪川を通過、37号線になり、四万十市の321号を通過して、予定通り17時、足摺岬の麓にある天然温泉地、ホテル足摺園に到着した。

### 金剛福寺、万次郎、足摺が土佐清水市の活力 この日はホテルの温泉でゆ

っくり休み、郷土料理のカツオの新鮮なタタキ等を皆さんと食べ、翌日へ、次の日はすぐそばにある足摺郷土館にて、足摺岬の景色を温泉の足湯につかって見学その後、足摺岬へバス移動、そこには中浜万次郎の銅像があり説明誘導のガイドさんが二人、足摺岬と椿の遊歩道へ案内して戴いた、足摺岬灯台は海上から80mある灯台で、足摺展望台からは広大な太平洋を一望、その場で見ると海は何か丸く見え地球の丸さを実感、椿のトンネルなども案内して戴いた。その後38番札所金剛福寺を拝観後、中浜万次郎の生家を訪ね、黒潮市場で買い物、昼食後、竜串海岸で海底館や貝類展示館を見学して、帰途に就いた。この様に土佐清水は小さな長浜港から出た万次郎のお陰もあり、町の活気が出た様である。



①四国の最南端足摺灯台



②中浜万次郎生家H22年復元

③38番札所、金剛福寺

## 一步会の活動の今後～「ホームページ」について

会員 内田武男（徳島市）

一步会のホームページは、2004年にリニューアルの計画が提案され、私は、その計画作成とアップロード、および、その後のメンテナンスにタッチしてきました。

リニューアルホームページの作成は、リニューアル担当メンバー4名で構想を作り、メンバーの一人が実際のホームページ作成に当たりました。私は、作成されたホームページを実際にアップロードした後、更新に関する、いわゆるメンテナンスを担当してきました。

私自身、ホームページを一から作り上げることがなかったのですが、現在までに、マイナーなデザインの変更などは行ってきました（2014年）。

しかし、今回のような節目には、必ずリニューアルの必要性があるのではないかと考えておりましたところ、運よく、一步会の活動とは別に、実際に一から作成する機会が得られ、一昨年と本年の2回、他の団体のホームページを作成することができました。

そういった経験をもとに、今回、ホームページのリニューアルに本格的に取り組みたいと考えております。

ところで、リニューアルにあたって、どのようにリニューアルするかが私自身十分に考えてこなかったこともあって、この一文を作成し、皆様のご意見をいただきたいと思っている次第です。

ホームページは、情報発信のツールでもあります。一步会の理念・考え方、実際の活動などが発信の内容になると思われます。

そして、情報を発信することで、一步会に興味・関心を持っていただき、会員として入会し活動していただく仲間を増やすこと、および、一步会の理念や活動の内容に賛同して、いろんな形でサポートしていただく方々を増やしていくことなどが主な目的と考えています。

ここで、一步会の今までの活動をおおまかに振り返るとともに、ホームページに関する課題を考えてみたいと思います。

環境ボランティア団体として活動を開始した一步会は、昭和コミュニティガーデンを作り、アドプト活動を行い、さらに、阿波踊りのゴミゼロ作戦で成果を上げる中、その他のイベントのゴミゼロ活動にも関与してきました。そして、お遍路さんから遍路道のごみがひどいとの声を受けて、遍路道の美化・清掃活動を開始しました。この遍路道の美化・清掃活動だけでも、約10年を超える活動を、地域住民の方、行政、企業などと連携しながら続けてきています。

そして、志を同じくする他団体が主催するいろんなイベントや活動にも参加し、お互いの結びつきを深めてきています。

遍路道の美化・清掃活動は、「四国八十八ヶ所霊場と遍路道の世界遺産登録」に向けた取り組みへと発展しています。

それに伴い、遍路文化のすばらしさを県民に再認識してもらおう活動として「遍路道のウ

オーキング」や「シンポジウム」なども開催しています。

こういった活動を振り返るとき、ホームページで明確に活動の底に流れる理念・考え方や活動の足跡を示すことができているかと考えると、かなり不十分だと感じています。

そこで、リニューアルするホームページではどうするかということですが、課題の解決方法を含め以下のようにすればどうかと考えます。

更新履歴をさらに見やすくする（文字を大きくしたり、目立つようにする）。

活動計画は、ホームページにアクセスしていただいた時にすぐ目に入るように、トップページに掲載する。

活動報告は、大幅にリニューアルし、そのときどきで適宜、実施報告を活動報告のまとめページに掲載する...時系列的にすべての活動を掲載する。

一方で、活動分野（テーマ）ごとの活動報告ページを作り、テーマ別活動の歴史、足跡が分かりやすくなるようにする。

そうすれば、一步会全体としての活動の歴史、足跡も分かりやすくなると思います。

また、他団体との連携を、ホームページで形にしていきます。

他の団体が実施される活動に一步会が参加した報告だけでなく、その団体独自の活動に関してもできるだけ発信していく。これによって、.....特にホームページを持っておられない団体に焦点を当てるという意味も含め.....多くの団体・人々が参加する活動、すなわち、活動の広がりを伝えていけると考えます。

.....活動に対する啓発になり、賛同して下さる人々が増える事を期待しています。

一步会「会員の活動記」をたくさん掲載する。

会員がそれぞれの得意分野を活かしながら活動に参加してきた状況や、日常の中で気づいたことや学んだことを投稿していただくのです。

成功事例はもちろん、うまくいかなかった事例についても投稿していただき、新たに会員として入会を考えておられる方たちに参加を促すきっかけとなると期待します。

そのためには、ホームページに関するスタッフの増強が必要と考えます。会員で、あるいは、会員以外でも、ホームページ作成に興味のある方、スキルをお持ちの方の参加を募りたいと考えています。一步会ホームページグループに参加することとなります。

これは、一步会の活動への参加の一つの形としても重要ではないかと考えます。

多様なスキルを持った多様な人材がその得意分野を活かすことのできる一步会活動になればいいと考え、参加の在り方の一つとして提起したいと思っています。

これからさらにリニューアルの内容を詰め、ステップバイステップで進めていきたいと考えています。いろんなご意見をいただければ幸いです。また、ホームページグループへの参加もよろしく願いいたします。

平成二十九年度「公園監視事業」

業務責任者 山田達男

今年度も昨年度に続き、室戸阿南海岸国定公園A(阿南地域)と東山溪県立自然公園C(勝浦町)合わせて、26回のパトロールを行いました。

今年度は、台風の襲来で大きな被害は少ないが、路肩の崩れや倒木等がよく目立ちました。

不法投棄は次第と減少しつつ、新たな箇所は少なく、以前からの投棄物が目に付きます。

新たなゴミとして、遍路道に弁当を食べた残りごみ袋やペットボトル等が散乱していた。

まず、室戸阿南海岸国定公園阿南地域A地区(阿南市畷町、淡島海岸～大湊町柏半島)は、6回パトロールを行いました。昨年、北の脇海水浴場入口への進入路が拡張され、公衆トイレの整備等、徐々にではあるが整備されているのが目に止まりました。

次にB地区(津乃峰山周辺)は4回パトロールを行いました。橘駅側の参道、三谷側の参道、長生側の参道周辺は、竹林の繁茂や田畑の放棄地等が多くなり、高齢化と共に過疎化が進んでいるのが次第と目立つようになっています。

C地区x100(橘町幸野日本電工の沖合い～椿半島・蒲生田半島)は、6回パトロールを行いました。

YMC A 近くの旧駐車場の土砂崩落は鉄製のゲートが1ヶ所設置されている程度で、危険を伴う可能性が大です。椿泊の灯台への遊歩道は、地層がもろい岩盤で落石が続き、表示はしてあるも観光に訪れる人もかなり居るそうです。蒲生田の大池周辺の遊歩道は石が露出して歩行が困難です。

また、木道の整備はほぼ完成のようです。灯台への遊歩道は、崖の崩落で仮設の歩道が出来ています。ここを訪れる人は、駐車場に止めている車のナンバーを見ると、北は旭川ナンバー、南は沖縄ナンバーの車があるのは、如何に各地から訪れているかが一目瞭然のようです。

D地区(伊島)は、2回パトロールを行いました。地蔵峠～観音堂までの伊島3番地蔵の内、新たに17番～23番までコンクリ舗装されていた。しかし、最北端の観音堂周辺は、石段の石が崩れ上り下りに大変です。弁天山への歩道も約半分ほど整備され、伊島を訪れる観光客が増えてくることを望みます。

国定公園の海岸線一帯では、特に台風や季節風による漂着ゴミで、蒲生田灯台への海岸や柏海岸の西側の林の中、北の脇海岸の漁協の東側、淡島海岸の亀崎漁港周辺は、ビニール袋や発泡スチロール、流木等が漂着しているのが目立ちます。

東山溪県立自然公園C(勝浦町側)の中津峰山以南 コース(星谷運動公園～婆羅尾林道)ではパトロール2回。勝浦川沿いの景色を眼下に、素晴らしい眺めを楽しませてくれます。

中津峰山以南 コース(中山地域～仏石～中津峰山～フライトパーク)はパトロール2回。ここは標高が高い所だけに、見晴らしも最高。但し、冬場は積雪のためパトロールの実施はしていない。

ここは、大雨が降る度に土砂崩れや倒木があり、毎年11月から年末に掛けて整備されています。また、以前からの家電製品や廃車の不法投棄は後を絶ちません。

中津峰山以南 コース(黒岩地域～今山～大柳)はパトロール2回。ここも見晴らしの良い所がたくさんあり、ハイキング等には打って付けのコースです。

鶴林寺コース(鶴峠～鶴林寺)も2回のパトロール。まさに歩き遍路の道である。大雨後の落石や路肩崩れ等が絶えません。

こうしてパトロールをしていて何時も感じることは、「ここは、国定公園や県立自然公園」ですよと分かる標識を道路沿いに設置する等、地域住民への喚起を促す対策をお願いします。また、各地からの来訪者の方に対して地名を知っていただく意義は大きいと思います。

その他として、地域の方々と共に、海岸沿いの雑木の伐採、雑草の草刈、漂着ゴミ、不法投棄の一掃運動等を行ってはどうでしょうか。一步会としても汗を流す活動を実施したいのですが、次第と高齢化してその勢いも次第と薄れつつあるのが現状のようです。

(平成29年度)

# 室戸阿南海岸国定公園A・東山溪県立自然公園C パトロール実施報告表

室戸阿南海岸国定公園A(阿南区域)・東山溪県立自然公園C(勝浦町)

NPO法人 徳島共生塾 一歩会

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間回数	個人回数
A地区	日氏名													
	計盛	2:21		7:4		11:17		15:8		20:17		25:7	計盛	
月回数	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	1	6回	富田
B地区	日氏名	3:22 米川				10:11 富田		17:13 計盛			23:9 米川		4回	富田
	月回数	1	0		0	1	0	1	0		1	0	4回	計盛
C地区	日氏名		5:6 富田	8:5 計盛			14:18 米川				22:8 富田	26:15 米川	6回	計盛
	月回数	0	1	1	0	0	1	0	1		1	1	6回	米川
D地区	日氏名		4:5 計盛				13:7 富田						2回	米川
	月回数	0	1		0	0	1	0	0				2回	計盛
(A) 中津峰山以南	①	1:15 姫野						16:9 姫野					2回	姫野
	②					9:4 姫野				21:19 計盛			2回	計盛
	③						12:5 姫野					24:6 姫野	2回	姫野
7月回数	1	0	0	0	1	1	1	1	0	1	1	6回	計盛	
(B) 鶴林寺	日氏名			6:3 姫野					18:3 姫野				2回	計盛
	月回数	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2回	米川
月回数合計	3回	2回	3回	0回	3回	3回	3回	3回	2回	2回	3回	26回	(30回)	
備考		6/3(土)ミーティング					10/29(日)ゴミ拾い作戦				2/24(土)ミーティング		3回	

※ A地区……:淡島～粕半島 B地区……:津乃峰山周辺 C地区……:橋・弁天島～美波町境界 D地区……:伊島

※ A-中津峰山以南 ①コース(車)……:星谷河川敷運動公園～中山ノ岩屋～波羅尾林道～中津峰山

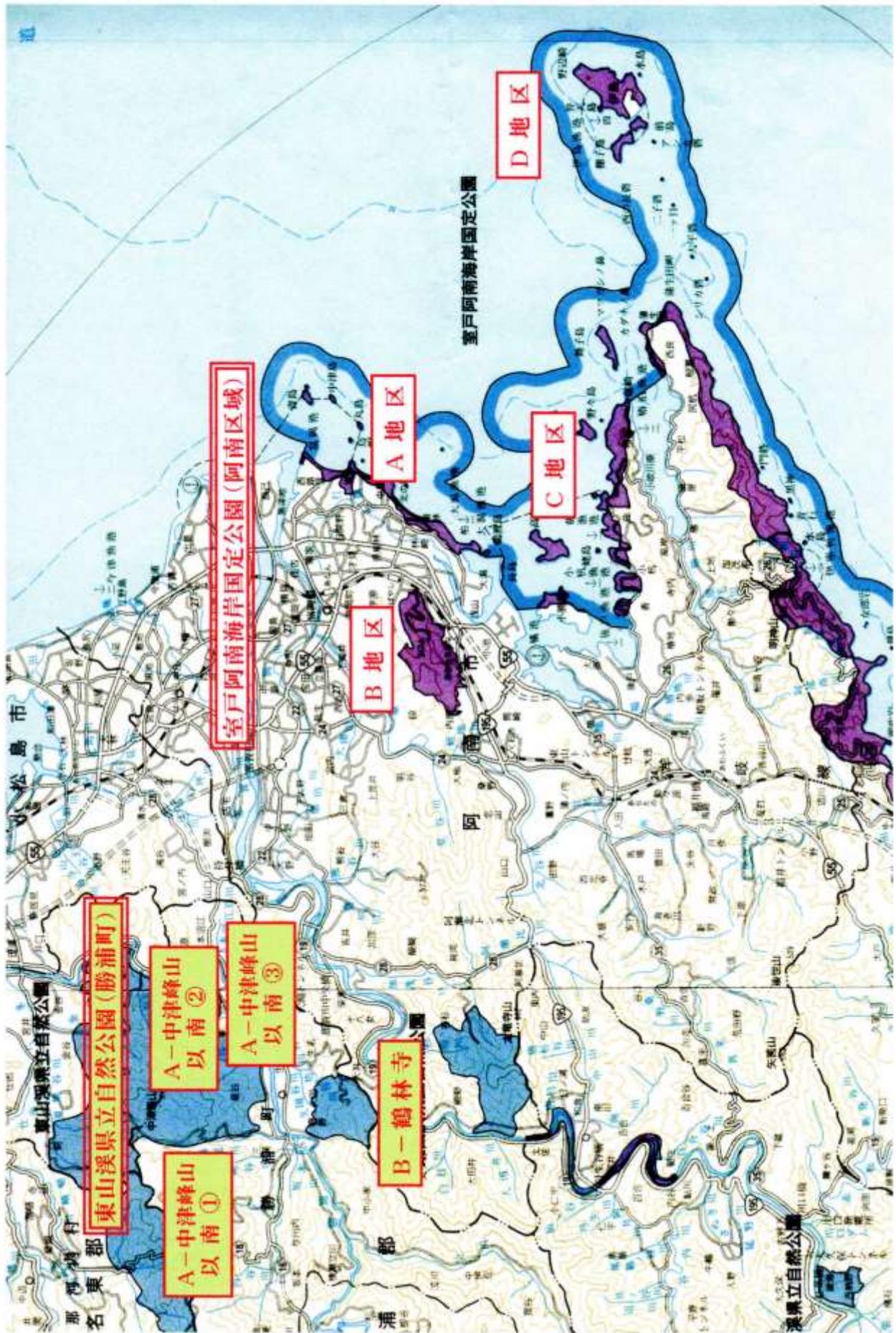
②コース(徒歩)……:星谷河川敷運動公園～星谷ノ黒岩～今山～大柳

B-鶴林寺 コース(徒歩):生名(県道283号線)鶴峠～鶴林寺(遍路道)

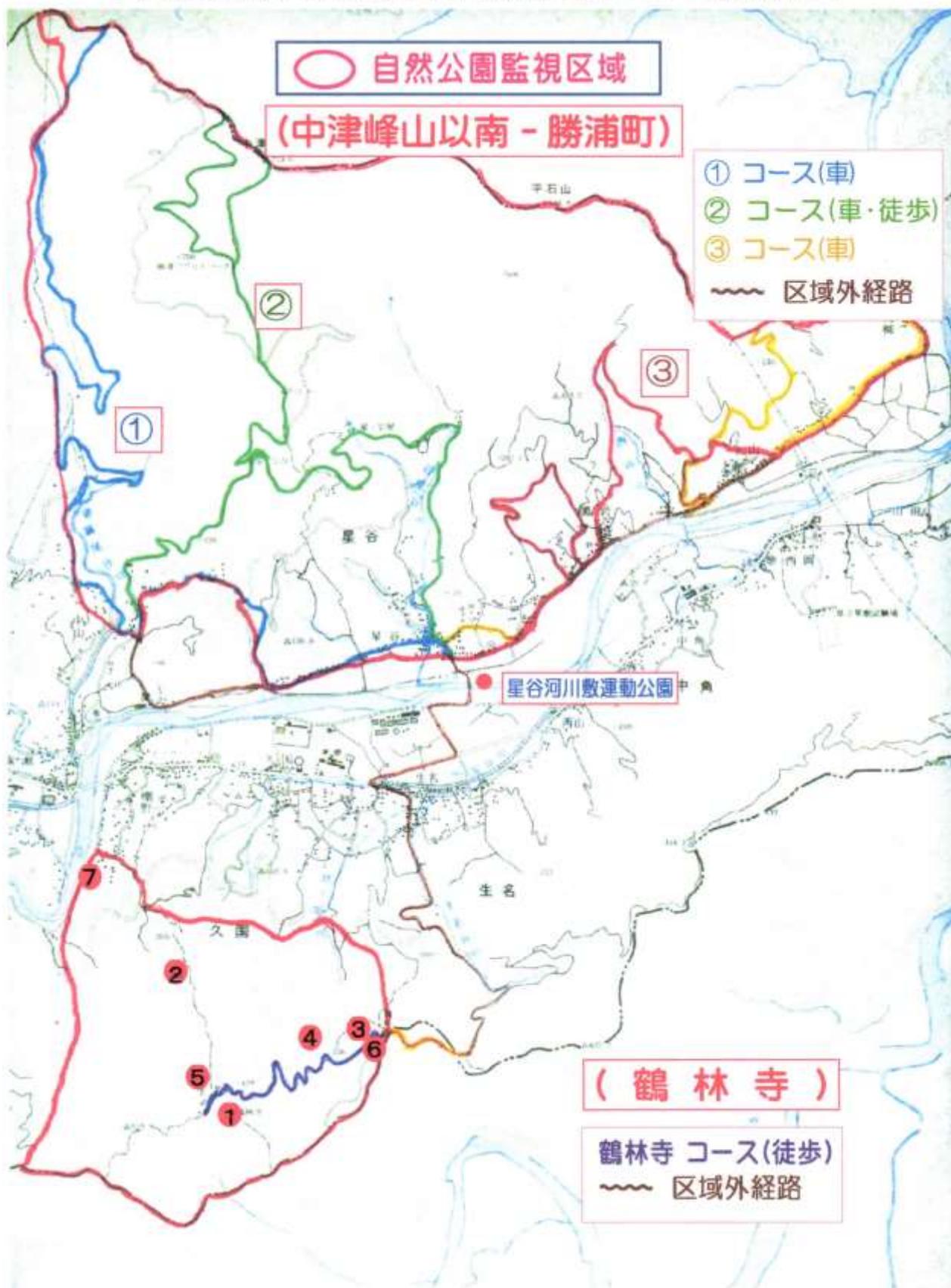
パトロール日(設定日=原則)

富田=火曜日	計盛=水曜日	米川=水曜日	姫野=月曜日	山田	新開	谷口
0885-32-5358	0884-28-1232	0884-42-1371	0884-42-0314	0884-22-2983	088-623-0960	088-622-2213(勤務先)
090-7578-7230	090-6284-7800	080-6397-6888	090-5142-5406	090-4781-4575	090-1575-2068	090-1576-2981

2018. 3. 20 作成



# 7月度(東山溪県立自然公園C)〈勝浦町〉



平成二十九年 度 海岸生物調査」

業務責任者 山田達男

## 【徳島県東部海岸】生物調査全体取りまとめ

特定非営利活動法人 徳島共生塾一歩会

1. 実施年月日	平成27年度			平成28年度			平成29年度		合計	
	8/2	8/30	9/27	7/21	8/2	8/21	7/26	8/9		
2. 実施場所	阿南市 大湊海岸	鳴門市 岡崎海岸	徳島市 小神子海岸	小松島市 金磯海岸	鳴門市 大毛海岸	徳島市 大神子海岸	阿南市 蒲生田海岸	阿南市 中林海岸	—	
3. 実施時間	12:30 ～14:00	11:00 ～13:00	10:30 ～12:00	12:30 ～14:00	12:30 ～14:00	11:30 ～12:30	13:00 ～15:00	12:30 ～13:30		
4. 干潮時間 (潮位)	13:18 12cm	12:30 17cm	11:18 33.7cm	13:18 12cm	13:18 12cm	13:18 12cm	13:50 20cm	13:05 25cm	—	
5. 参加者数	7名	10名	21名	9名	11名	21名	19名	11名	累計 109名	
6. 観察された指標 生物種(4捨5入)	90/7 13	79/10 8	263/21 13	108/9 12	127/11 12	202/21 10	223/19 12	181/11 17	累計 1,273/109 =平均 11.7	
7. 水質評価の平均	1,028/90 ×8 = 91.4 (B)	866/79 ×8 = 87.09 (B)	2,778/263 ×8 = 84.5 (B)	1,159/108 ×8 = 85.8 (B)	1,448/127 ×8 = 91.2 (B)	1,851/202 ×8 = 73.3 ©	2,800/223 ×8 = 100.4 (A)	1,947/181 ×8 = 95.2 (B)	累計 13,879 /1,273×8 = 平均 872 (B)	
8. 生物環境評価 の平均	525/7 75.0 (B)	460/10 46.0 (C)	1,433/21 68.2 (B)	746/9 82.9 (A)	866/11 78.7 (B)	1,479/21 70.4 (B)	1,667/19 87.7 (A)	1,048/11 95.2 (A)	累計 8,224 平均 75.4 (B)	
水質 評価	A 大変きれいな海	2	—	3	1		13	—	19/109= 127.4%	
	B きれいな海	5	10	18	7	11	8	6	11	76/109= 69.7%
	C やや汚れた海	—	—	—	1	—	13	—	—	14/109= 12.8%
	D 汚れた海	—	—	—	—	—	—	—	—	0
生物 環境 評価	A 大変豊かな海	1	—	4	6	5	5	15	10	46/109= 42.2%
	B 豊かな海	5	1	14	3	6	11	2	—	42/109= 69.7%
	C やや乏しい海	1	6	3	—	—	5	2	1	18/109= 16.5%
	D 乏しい海	—	3	—	—	—	—	—	—	3/109= 2.8%

調査記録シート提出者

平成27年 8月 2日 山田・姫野・富田・米川・新開・計盛・松岡 計7名

30日 山田・姫野・富田・米川・小松(美)・小松(征)・新開・山室・川井・中河 計10名

9月 27日 山田・姫野・富田・米川・富田(絹)・乾・小松(美)・小松(征)・新開・山室・川井・渡辺  
松田・小川・土井・庄野・松岡・中村・坂東・石山・岩見 計21名

平成28年 7月 21日 新開・姫野・富田・米川・計盛・松岡・佐野・渡辺・林 計9名

8月 2日 山田・姫野・富田・米川・小松(征)・新開・山室・川井・松岡・林・中野 計11名

21日 山田・姫野・富田・米川・新開・松岡・計盛・岩見・中村・吉田・藤永・綿谷  
大野・小寺・内藤・尾関・川崎・大谷・吉本・西谷・渡辺 計21名

平成29年 7月 26日 渡辺・山田・姫野・富田・米川・計盛・松岡・谷口・久保

岡本・岡本・助田・下谷・下谷・下谷・宮繁・八田・八田・新居 計19名

8月 9日 渡辺・山田・姫野・富田・米川・計盛・松岡・谷口・原・吉崎・久保 計11名



～平成29年度 徳島県海岸の生物調査実施事業～  
特定非営利活動法人徳島共生塾一步会 第1回目 阿南市蒲生田海岸 H.29.7.



～平成29年度 徳島県海岸生物調査実施事業～  
特定非営利活動法人徳島共生塾一步会 第2回目 阿南市中林海岸 H.29.8.

## 中浜万次郎翁の出生地

○万次郎は、文政10年（1827）に、中浜谷前の漁師悦助の二男として生まれた。幼少の頃より土地の老役今津家の下働きに出て母を助け、14才の時、宇佐浦（土佐市）の漁船に乗り組み、足摺岬沖での初漁中に遭難し、九死に一生を得て仲間と共に南海の孤島（現在の鳥島）に漂着した。

○143日もの無人島におけるサバイバル生活の後、米国捕鯨船ジョン・ハウランド号に救助され、船長ホイットフィールドとの出会いにより、以来10年間、ジョン・マンと呼ばれて、米国本土での初等・中等教育を受け、英語、数学、航海、造船等高度な学問を取得し、また、捕鯨船の一等航海士副船長として、七つの海を奔走し大活躍をした。

○嘉永4年（1851）に、母国日本に帰りたい一念から、大冒険を敢行して、厳しい鎖国令下の琉球に上陸し、那覇、薩摩、長崎、土佐藩で、1年10か月もの執拗な取り調べの後、やっとの思いで中浜で待つ母、汐との東の間の再開がなかった。

○定小者という土佐藩の下級武士から、風雲急を告げる江戸城下の直参旗本に抜擢された万次郎は、その時生まれ故郷の地名を名字として、中浜万次郎と名乗り、時あたかも大船建造禁止令の解除や、日米修好通商条約の批准と相まって、造船、航海、捕鯨等の技術指導に、東奔西走し、また、日米修好通商条約調印のための使節団の一員として、通弁主務は勿論咸臨丸の事実上の艦長として、その大役を見事に遂行したのである。

○明治2年（1869）開成学校（現東京大学）の教授に任ぜられ、中博士の称号で最高学府の教壇に立つなど、維新前後の激動期に、日米交流の懸け橋として、国際的、文化的に果たした功績は誠に偉大である。明治31年（1898）11月12日、東京京橋三町において、長男東一郎（医博）に看取られながら、波瀾万丈の71年生涯を終えた。

○「冒険とは、夢を形に変える行動力である」平成3年（1991）万次郎漂流150周年を機に、郷土の偉大なる先人、中浜万次郎の限りない人間愛と、不撓不屈の精神（ジョンマンスピリット）を顕彰し、その遺徳を長く後世に伝えたいものである。



①足摺岬灯台の東海岸



②長浜漁港



③万次郎の生家



## 遍路文化の学習内容

1. おへろとは	HENRO
2. 弘法大師=空海	Kobo Daishi=Kukai
3. 同行二人	Dogyo ninin
4. お接待	gift
5. 金剛杖、菅笠	Staff, hat
6. 線香3本、ろうそく一本	Incense, candles
7. 寺の左側通行	stay to the left/walk on the side
8. 一列で歩く	walk in single
9. 四国遍路は世界万国、誰にでも受け入れる文化	Shikoku Henro is the cultures which accept anyone in the world

## HANNYA SHIN-GYŌ (Heart Sutra) 般若心經

NOTE : Various English versions can be found on the Internet.

Title : Bussetsu Maka Hannya Haramitta Shin-gyō 佛說摩訶般若波羅蜜多心經

kanji zai bosatsu, gyō jin hannya hara mitta ji, shōken go un kai kū, do issai kuyaku.  
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄  
 sharishi, shiki fu i kū, kū fu i shiki, shiki soku ze kū, kū soku ze shiki, ju sō gyō shiki  
 舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識  
 yakubu nyo ze, sharishi, ze sho hō kū sō fu shō fu metsu fu ku fu jō fu zō fu gen.  
 亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減  
 ze ko kū chū mu shiki mu ju sō gyō shiki, mu gen ni bi zetsu shin i mu shiki shō kō mi  
 是故空中無色無受想行識無眼耳鼻舌身意無色聲香味  
 soku hō mu gen kai nai shi mu i shiki kai, mu mu myō, yaku mu mu myō jin nai shi  
 觸法無眼界乃至無意識界無無明亦無無明盡乃至  
 mu rō shi, yaku mu rō shi jin, mu ku jū metsu dō, mu chi yaku mu toku, i mu sho  
 無老死亦無老死盡無苦集滅道無智亦無得以無所  
 toku ko, bodai satta e hannya hara mitta ko, shin mu kei ge mu kei ge ko, mu u ku  
 得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心無罣礙無罣礙故無有恐  
 fu, on ri issai tendō mu sō kukyō nehan, san ze sho butsu e hannya hara mitta ko,  
 怖遠離一切顛倒夢想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故  
 toku a noku tara san myaku san bo dai, ko chi hannya hara mitta, ze dai jin shu, ze  
 得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜多是大神呪是  
 dai myō shu, ze mu jō shu, ze mu to dō shu, nō jo issai ku, shin jitsu fu ko, ko setsu  
 大明呪是無上呪是無等等呪能除一切苦真實不虛故說  
 hannya hara mitta shu, soku setsu shu watsu gya tei, gya tei, hara gya tei, harasō  
 般若波羅蜜多呪即說呪日羯諦羯諦波羅羯諦波羅僧  
 gya tei, bo ji sowaka. hannya shin gyō.  
 揭諦菩提莎婆訶般若心經

1. 平成30年5月2日

**徳島市に複合型体育館望む**  
(徳島市、林大輔・24歳・介護職員)

4月18日付朝刊で、「新体育館建設を 県内5競技団 体徳島市長に要望」を読みました。とくぎんトモニアリーナ(市立体育館)は1978(昭和53)年の建設から40年が経過し、設備などの老朽化が著しいといえます。

この施設は、私にとつて思い出深い場所です。幼い頃、体育館で開かれていた体操教室に参加していました。小学生の時には、地域のミニバスケットボールクラブの試合で利用したこともあります。

現在、徳島市内にはとくぎんトモニアリーナの他にも市立スポーツセンターや民間の施設、プールなども設置されていますが、私は複合型の施設として新体育館を建設してほしいと思います。

一例ですが、千葉県では松戸市市民交流会館・愛称「すまいる」があります。小・中学校の跡地を利用して、文化と運動の両施設を整備しています。多目的ホール、会議室、音楽スタジオ、乳幼児・子どもフリースペース、屋内・外運動場を備えた新しい複合型の公施設です。徳島市も財政が苦しい状態であるとは思いますが、新体育館を造るのであれば、ぜひこのような施設を参考にしてほしい。生まれ変わった体育館が、完成する日を楽しみにしています。

2. 平成30年7月4日

**海洋国の若者よこぎ出そう**  
(徳島市、林大輔・24歳・介護職員)

7月は「海の月間」でタンカーや砂利運搬船の甲板上で海に親しむレクリエーションや体験航海などのさまざまなイベントを展開している。

私は、徳島県立徳島科学技術高校海洋技術類に在学し平成23年3月に卒業した。同級生は、愛媛県今治市にある国立波方海上技術短期大学校に進学し、今では内航船の船員として活躍している。私は高校卒業後、職業訓練校を中退して

でも、海岸から海の景色を見ると、船員の頃を思い出す。苦労したのは、なかなか上陸できない日が続いたり、友人への連絡が取れず不安の日が続いたりした事である。長く船員をしている人を見ると感心する。高齢化に伴う船員不足が深刻で、女性はいまだに少ない。周囲を海に囲まれた日本。一人でも多くの若者が、広い海洋へこぎ出してほしいと思う。

一步会ユースの活動実績

① 遍路活動

お遍路ハウスの運営(国府町)、お接待活動(霊山寺の月命日 21日)、遍路ウォーキングの参加(一日一斉おもてなし遍路ウォーキング等)

② 絵手紙活動

牛乳パックで葉書をつくり、主にマジック、色鉛筆、水彩などで絵を描き、普段なかなか言葉にできない感謝の言葉などを書いて送る。施設などへ贈る。

牛乳パックの回収&施設への寄贈と葉書購入(毎月1回)、送付活動(年1回)、協力者へのお礼(毎月1回)

月間絵手紙ボランティア部、フードとくしま

## 一步会ユースの組織概要

- 団体名称 一步会ユース
- 団体の代表者 黒田明久
- 設立 2013年3月
- 会員数 7人(2018年3月現在)
- 運営主体 主に一步会若手会員が集まって設立した自主的組織
- 事務局住所 板野郡北島町中村字蛇池1-6 メゾンドフローラ 302号
- 連絡先 090-9454-7460
- メールアドレス (携帯) boklof.yboko@softbank.ne.jp  
(パソコン) Boko0524@yahoo.co.jp
- 設立目的 私達は人と人とのつながりを大切にしながら身近な環境活動に  
一步一步取り組んでいくことを通じて、ごみゼロの徳島にして  
行きます。
- 担当 代表・会計：黒田、副代表：西岡、事務局長：福谷  
広報・ブログ：福井、相談役：原、米川、富田
- 入会手続き 所定の書面で 年会費1000円
- 定例会 日時：毎月第1土曜日 19~21時  
場所：徳島市市民活力開発センター
- 刊行物 なし

## 編集後記

今年の6月3日シンガポールにおいて待ちに待ったアメリカのトランプ大統領と北朝鮮の金正恩労働党委員長が会談。それは実に朝鮮戦争後68年ぶりに開かれた歴史的なニュースとなったが、はたして核が撤去され、平和が戻り、北朝鮮の経済が回復されるのか、まだ表面の言葉に過ぎない。トランプ大統領も金正恩も理想を伝えただけで、心配な状況・・・日本の拉致問題を含め、国交回復はまだ先でしょう。日本でも安倍首相の加計、森友問題に不信感が拭えず、政治がすっきりいってないのが実情か。

そんな中で、一步会は前理事長新開さんの骨折もあり、進行が遅れたが、1~5番の海外留学生や身体障がい者達との遍路ウォーキング、それに、大日寺~井戸寺などの体験遍路紀行、また、昭和コミュニティガーデンの東側入り口の柵約20mが女性の車に大きく壊され、どうしようかと心配しましたが、一步会の仲間が資材を集め、6月初めに修復されました。そして、この「一步会だより」も20号となり、環境問題の歴史を歩んだ実績を感じます。そんな中でも内田さんが表紙など綺麗に作り、送付してくださり、感謝。

次の年の発行を皆さんに期待していますので、よろしく願いいたします。

以上

## 海外留学生達との遍路ウォーキング

(H17年12月10日徳島新聞報道)



①留学生達の霊山寺での記念写真

読んで学ぼう

# 外国人が歩き遍路体験

## 霊山寺―地藏寺の11キロ

県内在住の外国人や

留学生が遍路道を歩く

体験ツアー（NPO法人徳島共生塾一歩会

主催）が、鳴門市大麻町の四国霊場1番札所・霊山寺から板野町の5番札所・地藏寺までの区間で行われた。

ベトナムやタイ、マレーシアなど9カ国の23人が参加。霊山寺を参拝した後、田園風景を楽しんだり互いに写真を撮ったりしながら札所を巡り、約5時間かけて11キロほど離れた地藏寺に到着した。

歩き遍路を体験する外国人―板野町黒谷の四国霊場4番札所・大日寺



カンボジア出身で徳島大に留学しているフット・カイウモノリットさん(24)は「日本らしい風情があつて良かった」と話した。

(千里達彦)

体験ツアーは、県の「みんなが主役の人権啓発推進事業」の委託を受けた一歩会が2014年から年2回行っており、8回目。



②極楽寺で鐘楼での初めての鐘打ち体験



③5番地藏寺で銀杏を背に参拝打ち止め。

## 写真で綴るこの1年間の活動（2）



(7) 2月、障がいを持つ人たちとの霊山寺参拝 (8) 極楽寺本堂より↓が雪で神秘的



(9) 3月歯辻神社南のクリーンアップ



(10) 3月ユース.達との中央公園の清掃



(11) 桜が満開、皆でガーデニング



(12) 車で破損の柵、補修完成 4月1日